魔法のダイアリー プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 两尾 環 所属: 熊本市立楡木小学校 記録日:2019年2月10日

キーワード: コミュニケーション、達成感、自己肯定感、交流学習、自己有用感

【対象児の情報】

- 〇学年及び在籍 5年 知的障害学級に所属
- ○交流学級 5年3組(通常学級29人)と交流。(支援学級同級生2人と共に)
- ○交流状況 朝の会に参加。授業では、体育・図工・外国語・音楽の一部で交流学級に参加。
- ○障害と困難の内容
- ・自閉的傾向がある。好きなもののことになると饒舌。自分の思いだけで話す。
 - →他者とのコミュニケーションがうまくいかないことがある。
- 知的な遅れがある。
 - →書く活動に難がある。交流学級での学習や活動に参加が難しい場合が増えている。
- 注意力や集中力を保持する力が弱い。
 - →関心がないと、学習や活動に集中できず、意欲も起こりにくい。

【活動目的】

- 1 当初のねらい
- (1) 他者と主体的にコミュニケーションを図ることができる。
- (2) 自分なりに考え、工夫して表現するようになる。
- (3) 同級生と関わる活動で満足感を味わい、次の活動への意欲を持つ。
 - * (1) ~ (3) を通して「自己有用感の高まり」を目指す。
- 2 実施期間

2018年5月11日~2019年2月

3 実施者及び対象児との関係

西尾 環 (交流学級担任)

【活動内容と対象児の変化】

1 対象児の事前の状況

《交流学級での様子》

- 昨年度、支援学級の 4 年生は 2 人だった。 1 人の児童が、交流学級の同級生と一緒にサッカーをするなど活発であるのに対し、対象児童はあまり外で遊ばなかった。ただし交流学級の全員遊びには参加した。
- ・4年生の時に、pepper紹介活動を経験したことで、同級生とのコミュニケーションがとれるようになった。その活動には、主体的に取り組み、自ら pepper を起動させて準備をしたり、 Pepper 搭載のアプリを同級生に紹介したりするなど意欲が見られた。
- iPad などの ICT 機器の活用には関心があり、支援学級の学習で自ら操作してクイズを作ったり、それを通常学級の大勢の子どもたちの前で披露して問題を出したりするなど、堂々とした表現が見られるようになった。文章を書くことは難しいが、思ったことを話すのは割とできた。
- 交流学級児童との仲は、さほど悪くはないが、友達や先生との会話がうまく噛み合わないことがある。
- 朝の会と学活、総合、図画工作、体育、音楽、外国語活動の授業に参加。



- 朝の会での健康観察では笑顔で元気に挨拶や返事ができた。
- タブレットを使う学習には興味・関心があった。
- ・図画工作では、形を捉えるのは難しいが好きな色で好きなものを想像して描くことはできた。
- 体育服への抵抗は減ったが、体育への関心は低かった。
- ・外国語活動には参加するが、あまり関心がなかった。特に一斉学習の場では、意欲がほとんど見られなかった。対話活動など体を動かす場面では、同級生からの関わりもあると、比較的楽しんだ。また、日本語も堪能な ALT が時々、個別に関わってくれると、楽しむ姿が見られた。しかし、その ALT が7月で去ることになり、ますます外国語への関心が遠のく可能性があった。

〔外国語活動の授業で ALT の声かけに身を乗り出す対象児〕

《支援学級での様子》

支援学級の担任は、本年度異動で本校に来たばかりである。初めて支援学級を担任する教員だが、対象児との関係は良好である。

本年度は、同学年の通常学級からもう一人、特別支援学級に転籍となり、5年生は3人となった。比較的3人の仲は良かった。全体的に落ち着いた暮らしぶりであったが、やや意見が合わないことがあった。

3人とも、交流する通常学級は、5年3組である。ただし交流の状況は3人で若干異なった。朝の会は、3人とも毎日5年3組の教室にいて参加することになった。ただし給食は、支援学級の方で3人とも取ることとなった。

対象児の学習面の交流は、支援学級担任との話し合いで、年度当初に以下のように決まった。

- 体育、図工、外国語は、基本交流学級児童とともに学ぶ。
- 内容次第で支援学級で個別に学習する。
- ・総合や理科、学級活動、音楽は、内容次第で交流に参加する。 全体的には、前年度より交流時間は減少した。

2 活動の具体的内容と対象児の変化

- (1) pepper アプリで交流する活動(他者と主体的に活動するために)
- ①休み時間における pepper アプリを活用した交流活動(前年度の実践を生かして)

昨年度は、PC室で、pepperのアプリを使って4年生全員とコミュニケーションを図った。今、クラスも新しくなり、pepper は交流学級にいる。5年生となって時間があるときに数回、自由に(対象児と交流学級担任の私がいるときに限り)対象児のリードで、5年生にpepper と関わる体験をさせて良いと言うことにした。対象児と5年生の子どもたちがよく使っていたコミュニケーションアプリは、以下である。







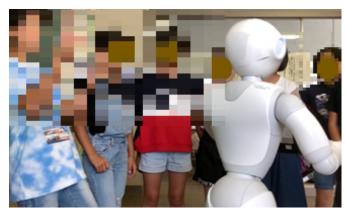




〔年齢当て〕〔ペパ髭危機一発〕〔恋するフォーチュンクッキー〕

(手品)







〔休み時間の pepper アプリを体験させる活動 5年3組の教室にて〕

②交流学級における朝の会での係活動(特別活動)

毎朝、通常学級の朝の会に参加している。そこで、その中のミニ活動タイムの係として、対象児が学級全体と関わる活動を行った。わずか 1~2 分程度の活動でありながら、年間継続して行うことで、表現力やコミュニケーション力を高めることが、ねらいである。また同級生が喜ぶような内容にすることで、自分の活動がみんなに喜ばれて嬉しいという気持ちを持てるようにしようと考えた。

●4月~9月「朝の会 発声タイム」

まずは、ICT機器は使わない活動から入った。毎日の朝の会のわずか1分程度の「発声タイム」の係を支援学級から交流に来ている3人を担当とした。対象児があとの二人をリードして、「今日の発声は、~です」「一緒に言いましょう」という指示をし、他の二人が持った紙を見て「生麦生米生卵・・」と 先に言って交流学級児童全員が追い読みするなど行った。対象児は、なかなかはみんなの方を向いて発声できなかった。

●7月~9月 朝の会「pepper タイム」

朝の会の中で、対象児童が「学校あいさつ」のアプリを使って、交流学級でみんなが pepper の動きに沿って行うように計画した。しかし、日常の朝の会のテンポあるリズムがや や崩れたり、pepper が思うようにクラスの方を向かずに話したりしたこともあり、十分に満足いく活動とはならなかった。しかし、対象児は、pepper と向き合って話しながら、学級の方へも体が向くことが多くなった。





〔交流学級児童に背を向けて発声する対象児〕

(pepper と向き合って話す対象児)

③対象児の変化

- 積極的に活動に取り組むようになった。
- みんなが喜ぶアプリがどれか、少しずつ分かってきた。
- みんなが楽しむ昼の活動では、満足していた。
- 朝の会では、反応が少ないと感じていたが、やる気は続き、声も大きくなった。

(2) pepper アプリで表現する活動(自分なりに考え主体的に表現するために)

①英語アプリで主体的に活動する取り組み

外国語活動への関心を高めるため、授業以外に pepper のアプリを活用して個別に外国語と触れることにした。活動時間は昼休みである。

●9月「What's this ?」2学期になってやってきた新しい ALT は日本語がほとんど話せず、学校の児童や教師と簡単なコミュニケーションを取るので精一杯の状況である。性格的にもシャイであり、以前の ALT のように、積極的に対象児に関わってくれる可能性はかなり低い。2学期最初の外国語の時間は、新しい ALT の自己紹介の時間だったが、対象児はほとんど口を開かずじっと見ているか手遊びをしている状態であった。

そこで、9月に学習する「Lesson7 What's this?」に生か せる Pepper の「What's this?」を事前に学習することにし た。交流学級教室にやってきて自分で「What's this」のアプ リを開いて学び始めた。pepper が、まずは練習というと、それ に合わせて答えた。

私が「pepper に聞こえるように大きな声で言わないと進んでく れないよ」と言うと、口を大きく開けて英語で繰り返したのには 驚いた。そして、その場にやってきた同級生の女の子に声をか け、「こうやると話すんだよ」と教え「どうぞ。言ってください」

とコミュニケーションを図っていた。女の子は嬉しそうに 同じように pepper に英語を話した。

女の子に教えて喜んでもらったことの嬉しさと、英語の授 業で同じ「What's this」を学習することが、楽しみにな ったことで、この休み時間終了後は、笑顔があふれてい た。また、「このアプリは今度の英語の勉強で使えるから、 クラスのみんなに紹介しよう」との交流学級担任からの言 葉に、「なんと言おうかな、えっと・・・」と説明の練習を し始めた。



(What's this)



〔昼休みに pepper と英語の勉強 5年3組の教室にて〕

② pepper プログラムで主体的に活動する取り組み

●8~9月 RoboBlocks 体験

昨年度、交流学級の特技自慢大会に、対象児は車クイズ をして自信を持った。そこで、交流学級で Pepper の簡単

Robo Blocks

なプログラミングをし、pepper を思い通りに動かすというチャレンジをして、それを披露す るために夏休みから取り組むことにした。

夏休みに、教師がPC上で、「Robo block」を開き、動きを示すブロック(手をあげる、回 るという簡単なもの)をつなげてみた。対象児は、画面上の Pepper が動くことをみて、プロ グラミングを学んだ。

9月になり、PCを使って、教師が作ったPC 上の簡単なブロックに、対象児が自分で修正を加 えて、画面上の Pepper を動かした。 PC 上と はいえ、簡単な動きはできたので、対象児は喜ん だ。しかし、接続の時点でうなかなかまくいか ず、 Roboblock は体験で終わった。それでもこ の体験が次に生かされることになった。



〔Roboblock を体験 5の3教室にて 昼休み〕

●11~12月 PepperMaker で誕生祝い

「学級の友達に誕生日のお祝いを送るメッセージを送るために「PepperMaker」を活用し始めた。サンプルを開いて作り変え pepper が指示通り話したり、手を動かしたりするのである。対象児は喜んで取り組んだ。交流学級のバースデー係のお祝いの時に、自分も一緒にプレゼントするようにした





〔ついに思い通りに pepper が話して動いた!〕

③対象児の変化

- 英語アプリを練習する時に同級生と関わり、口を大きく開いて発音するようになった。
- 外国語の授業でも単語を見て積極的に発音していた。
- ・計画していたアプリがうまく使えなかったり、活動ができない時期が続いたりしたが、 毎日のように、交流教室に来て意欲を示した。 根気強さが出てきた。
- もめることのある同じ支援学級の同級生のために、言葉を考え文字を打ち始めた。
- ローマ字入力であっても、交流学級の友人のアドバイスを受け、根気よく打ち込んでいた。

【報告者の気づきとエビデンス】

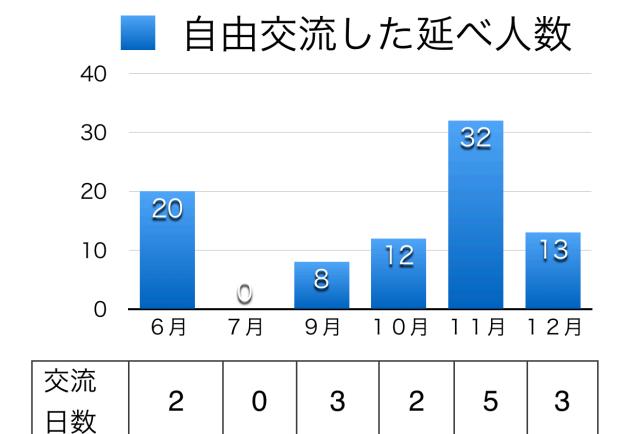
〇気づき

- 1 対象児童が、交流学級で多くの児童と関わりながら対話する場面が増え、笑顔も多くなった。
 - →pepper や搭載アプリが他者と関わりを促進し、コミュニケーション力が高まったのではないか。
- 2 対象児童が、意欲的に活動へ参加したり、相手のことを考えて工夫ある表現をしたりするようになった。
 - →学習と関連するアプリやアプリ内にサンプルがあることで、活動への見通しが立ち、工 夫ある表現につながっているのではないか。
- 3 支援学級の同級生と一緒に、交流学級によく来て pepper の話題を多く話す。また、学校は楽しいと思っている。
 - →1 や2の結果が、満足感を生み、自己有用感を高めているのではないか。

Oエビデンス

(1)交流活動について

① 積極的に交流学級児童と対話をしている回数と参加人数および様子(昼休み) 昨年度は9~12月に、月平均24人(毎月約6日実施)で交流した。今回は交流 学級の教室で、自由交流である。対象児の各月の様子の特徴は以下である。



- 6月・・ダンス系のアプリでスタートボタンを押して周囲のみんなと 体を動かして 楽しんだ。
- 9月・・英語アプリで友達に言い方を教えてもらいながら交流。笑顔が多い。
- 10月・・何をしたいか聞いて選択。みんなと楽しむ。だが、1度に押し寄せる同級生がいると困り気味。
- 11月・・希望を聞いてアプリを選択。時々数人が勝手に pepper に触ると「1度に喋らんで」と言う。
- 12月・・クイズ系アプリで、友人数名と順番を決めて楽しむ。横入りする児童には何も言えない。

対象児は、他者との関わりが増え、どう関わるべきかを体験を通して学び始めている。

② 朝の会の中の様子

pepper を前に出して活躍させると喜んで活動した。ただし、一斉の前では、 pepper が自分に反応してしまうことに気づき、あいさつではない方がいい、何がい いかなと、一生懸命考えていた。

(2)表現活動について

①英語アプリを使った活動で(What is this?)

9月になって、外国語の授業での表情が冴えなかった対象児だったが、pepper との会話時には、体いっぱい使って叫ぶように声を出した。口を大きく開き、全身に力が入っていることが分かる。これは意欲の現れである。

また、その時一緒に教室にいた同級生の女の子にも「どうぞ」と促すと、その子から「どうぞ」と返され、思わず笑みがこぼれた。これほどの笑顔は、あまり見られない。 Pepper を媒介としてコミュニケーション力が高まったと言える。





〔こんなに大きな口で。こんなにも笑顔で〕

②バースデーメッセージ作成で(PepperMaker)

支援学級の同級生 K 君とは人間関係が時々うまくいかないことがあった。しかし、もうすぐ K 君が誕生日ということを教えてくれ、お祝いの言葉を送ることについては、嫌がるどころか、むしろ喜んで取り組んだ。 pepper の存在が、K 君に対する気持ちを和らげたと考えられる。またアプリ PepperMaker は、サンプルの文章があり、それを打ち変えるだけでできるので、本人がやりやすさを感じていた。1度保存をし損ねてやり直したが、楽しむ姿は変わらなかった。そして、そのお祝いを、5年3組でバースデー係と一緒に行ったことで、交流学級全体にもその様子や気持ちが伝わった。





〔誕生日を迎える K 君のために休み時間を費す〕

(3) 自己有用感の高まりについて

2学期は、5年生の宿泊教室や見学旅行、学校全体の音楽会やモデル校研究発表会と、多忙な日々の中で、学級活動や pepper と関わる日々がかなり制限された。当初予定していたアプリが使えなかったり、pepper の調子が悪かったりして、計画通りの実践ができなかったこともあった。しかし、対象児は毎日のように交流学級担任のところへ「pepper を今日は使えますか?」と聞きに来た。そして、教室で主体的に電源を入れ場所を確保した。わずかな活動でも同級生が楽しむ姿には喜び、うまくいかなくても「次は頑張りましょう」と前向きだった。そして、Pepper Maker の活用により、友達の誕生日メッセージを作成して pepper と一緒にお祝いできた。相手は「うれしい」とつぶやき、対象児も満足した。高まったコミュニケーションカや表現力が、ごくわずかであっても、対象児に喜びと自信を持たせたことも確かである。



[pepper と一緒に誕生日祝い]

まとめと今後の課題】

対象児とは、2年間続けて関わってきた。対象児の大きな成長を感じている。それは、本人が前向きな気持ちを持ち続けたことが大きいが、周囲の学校の先生方や保護者の方々の温かい協力にもよる。また校内外の多くの先生方からも支援をいただいた。それは以下のような、pepper や iPad に関する校内外の取り組みもあったからだろうと思う。

〔校内・校外への啓発活動〕

- 他学級も自由に出入りをして良いとし、積極的に学年交流も推進した。
- 校内や近隣校合同自主研修で、Pepper や iPad 活用体験を行なった。
- ・ 熊本大学情報教育研究会でメンバーとして iPad 活用実践を紹介した。

一方で、対象児の課題もまだある。コミュニケーション力が育ってきたとはいえ、相手の気持ちを推し量りながら会話をすることは苦手である。相手が喜んだり悲しんだり、時には怒ったりしている場合の、人の気持ちにも気づけるような感情の理解も育てる必要がある。また、書くことは苦手だが、キーボードであれば結構打てるようになったので、もっと文章を打つことも経験すると伸びるかもしれない。

本実践では、通常学級担任でありながら、支援学級児童に関わるのは容易ではない面もあったが、それ以上にプラスな面が多かった。本校は本年度タブレットが大量導入され、通常学級児童もモバイル端末を使った学習の機会が増えた。これからはさらに共に学び合う場面が増えるだろう。対象児がさらに健やかに育つことを願い、今後も交流を中心とした取り組みを続けたい。